

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））
被災地のアルコール関連問題・嗜癖行動に関する研究
（研究代表者 松下 幸生）

平成 25 年度分担研究報告書

宮城県石巻市におけるアルコール使用障害者の支援に関する介入調査研究
研究分担者 長 徹二 三重県立こころの医療センター 医長

研究要旨

東日本大震災後にアルコール依存症などのアルコール使用障害者の増加、そして精神保健相談におけるアルコール関連問題の割合の増加が認められている。本研究は、それらの支援を行う援助者やボランティアなどに対して、アルコール使用障害の基礎知識から関わり方に至るまでについて 3 か月連続 3 回の体験学習研修を行い、支援者のアルコール使用障害者に対する姿勢の変化について検討する。

具体的には、アルコールに関連する心身の問題、アルコール問題をもつものとの関わり方、アルコール問題をもつものの家族支援の 3 つの要素に重点を置いた実践を伴う研修を計画し、AAPPQ (alcohol and alcohol problems perception questionnaire)、N-VAS (Nawata-Visual analogue scale) を用いて、アルコール問題をもつものへの関わる姿勢などを中心に評価し、その有効性に関して検討する。

研修実施は平成 26 年 3 月から 5 月にかけて宮城県石巻市「からころステーション」にて行い、次年度にその結果をもとに考察を行う予定である。なお、研修に併せて同時期に医療支援も行い、現状をより具体的に把握し、現場の困っている声を支援につなげることができるように工夫する。

研究協力者

原敬造：原クリニック

渋谷浩太：震災こころのケア・ネットワークみやぎ からころステーション

田中増郎：高嶺病院

久納一輝：三重県立こころの医療センター

小畑精一郎：三重県立こころの医療センター

江上剛史：三重県立こころの医療センター

えて、支援を実際に行っている者において、介入が困難なため、成功体験が得られにくい疾患群であるため、自信をもって支援にあたるのが困難であるという声も少なくない。

このことをふまえて、支援を行うものの実態を調査するとともに、その支援を行うもの全般に対して、基礎知識から関わり方や家族に対する支援等に至るまでについて実践を伴った体験学習を伴った研修を実施する。

A. 研究目的

宮城県石巻市「からころステーション」における調査¹⁾で、東日本震災後にアルコール依存症をはじめとするアルコール使用障害をもつものが増加している。具体的には、精神保健に関する相談において、全体の延べ件数は 2012 年が 5342 件うち、アルコール問題に関するものが 6.0%であったが、2013 年には 8419 件中 11.7%とほぼ倍増していた。このアルコール問題とは、お酒が原因で他人とトラブルになったりするようなものから、何かあるとついお酒に手が出てしまうというものまで含めている。加

B. 研究方法

具体的には、アルコールに関連する心身の問題、アルコール問題をもつものとの関わり方、アルコール問題をもつものの家族支援の 3 つの要素に重点を置いた実践を伴う研修を 3 回 3 か月連続で実施する。

そして、その介入前後で自己記入式の調査票（AAPPQ：alcohol and alcohol problems perception questionnaire）とアルコール使用障害者との距離感からスティグマを類推する調査票（N-VAS：Nawata-Visual analogue scale）

を融合した票（添付資料1）を用いて、アルコール問題をもつものへの関わる姿勢などを中心に評価し、研修の有効性に関して検討する。

AAPPQ は 1980 年に Cartwright²⁾らによって作成された、アルコール関連問題を持つ者に対する仕事を行う際の医療従事者の態度を測定する尺度である。複数の研究において、信頼性・妥当性が検証され、研究に使用されている。英語版では、得点が高いほど態度がネガティブであることを示すが、本研究では高野が作成した日本語版³⁾を用いたため、得点が高いほど、アルコール使用障害患者に対する仕事をする際の医療従事者の態度がポジティブであることを示すので注意が必要である。

また、N-VAS⁴⁾はまだ論文化されていないが、一般的に用いられる Visual analogue scale を応用している。具体的には、同心円の中心にアルコール使用障害者がいると仮定した場合に、自分はどの位置にいるかを図示してもらい、その距離を測定するものである。

研修実施は平成 26 年 3 月から 5 月にかけて宮城県石巻市「からころステーション」にて行い、対象は職種を問わず、アルコール問題をもつものの支援を行うもの全般に対して行う。その対象者に対して、研究の趣旨を「アルコール問題をもつものの支援を行うものの実態調査」であると伝えるが、同時に研究調査に参加しなくても研修を受けることはできることを保証する。参加協力の意思がある者は、face シート（添付資料2）研究参加前調査票（添付資料1）を記載してから研修に参加する。

研修は 1 回 75 分で 3 か月毎週第 3 水曜日に開催する。その内容は アルコールに関連する心身の問題、アルコール問題をもつものとの関わり方、アルコール問題をもつものの家族支援という大きく 3 つのテーマに沿って行い、いずれの回も必ず実際に支援する体験型の学習の要素を取り入れる。研修終了後に、AAPPQ と N-VAS を含めた研修後調査票（添付資料3）の記載をお願いする。

なお、研修参加回数は1回でもエントリーし、参加回数に応じた解析も行う。

（倫理面への配慮）

研究調査に参加しなくても研修を受けることはできることを保証する。また、調査で得られた情報は集団のデータとして医学的報告にのみ使用し、無記名の調査で個人情報は公開することはない。個人名は同意書を除いて記載することはない。参加 ID を使用する。この ID に関して、調査へのエントリー後研究分担者のみが同意書から ID と名前を連結する一覧表を手書きで作成し、作成後すぐに同意書から ID を切り取り、シュレッダーにかける。そのため、参加者指名と ID を連結できる情報はこの一覧表のみで、この書類は個人情報の保護に努めるため、研究分担者の所属する病院内でカギのかかる箇所に厳重に保管して管理するものとする。

また、調査終了後は入力作業が終了次第、速やかに本調査票を破棄する。添付資料3に示すように研究参加の説明と同意書を用いた。研究に同意しなくても不利益を受けることはなく研修に参加できることを約束し、参加協力はいつでも同意を撤回し、中止することができる事も説明する。三重県立こころの医療センター倫理委員会の承認を受け、院内の倫理規定に基づき研究を進め、研究で得られたデータについては、学術的報告のみにとどめる。

C . 研究結果

H26 年 3 月 19 日、4 月 16 日、5 月 21 日の 3 回にわたって研修を開催するため、まだすべての参加者が確定していない段階であり、結果は公表できる状況にない。3 月 19 日のみ無事研修を終えている。

D . 考察

全ての研修終了後に研究結果がそろそろ来年度に結果に基づいて考察するが、直接現場での

アルコールに関する医療支援に参加した感想としては、アルコール依存症の治療を断酒する飲酒するか否かの二分法で考えて支援している印象が強かった。また、適切に関わることができているケースの相談が多く、支援者が「断酒が軌道に乗って回復する」という結果が出ていないことに不安を抱きやすい傾向がある印象も少なからず感じた。そのため次回、次々回の研修の内容を計画するにあたって、回復の途上を支えるイメージしやすくする工夫が必要である。また、アルコール問題そのものよりも、当事者の良いところに関わることに重きを置いて、生き方や生活に関する些細なことから関係性を築くことを重視できるようにする必要もあると感じた。

引用文献

- 1) 原敬造：アウトリーチを中心にした石巻圏での精神保健活動の現状と課題 第33回日本社会精神医学会 2014
- 2) CARTWRIGHT, A. K. J. : The attitudes of Helping Agents Towards the Alcoholic Client: the Influence of Experience, Support, Training, and Self-Esteem, British Journal of Addiction, 75, 413-431, 1980 .

- 3) 高野歩：認知行動療法プログラムを実施する医療従事者における効果の検証ならびに患者や仕事に対する態度の変化の検討
(平成23年度厚生労働科学研究費補助金「薬物依存症に対する認知行動療法プログラムの開発と効果に関する研究」総合研究報告書：研究代表者 松本 俊彦)
- 4) 縄田秀幸ら：Stigma and mental Health Professionals, 7th The Course for the Academic Development of Psychiatrists (CADP)報告書、JYPO、2008.

E．研究発表

- 1．論文発表
なし
- 2．学会発表
なし

F．知的財産権の出願・登録状況

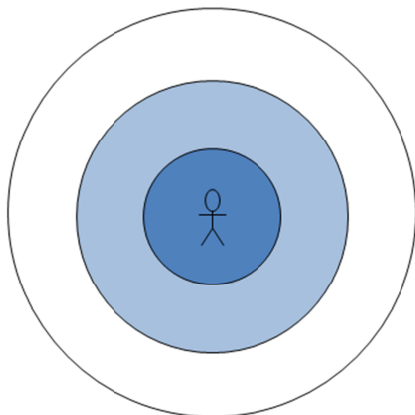
- 1．特許取得
なし
- 2．実用新案登録
なし
- 3．その他
なし

(添付資料1)以下の文章について、最もあてはまる答えに をつけてください。参加 ID ()
 この質問では、飲酒者とは、何らかの飲酒問題を持ちつつ飲酒している人のことを指します。

		1 全くそ 思わない	2 そう思 わない	3 あまりそ う思わな い	4 どちらと も言えな い	5 少しそ う思 う	6 そう思 う	7 とても 思 う
1	アルコールやアルコール関連問題に関する仕事上の知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
2	飲酒問題の原因について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
3	アルコール依存症について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
4	アルコールが及ぼす身体的な影響について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
5	アルコールが及ぼす心理的な影響について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
6	飲酒問題を生じさせるリスク因子について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
7	飲酒者に対し、長期にわたって相談にのり助言する方法を知っている。	1	2	3	4	5	6	7
8	飲酒やその影響について、患者に適切にアドバイスできる。	1	2	3	4	5	6	7
9	飲酒者を援助する責務をしっかりと認識している。	1	2	3	4	5	6	7
10	必要な時は、患者に飲酒について尋ねてよい。	1	2	3	4	5	6	7
11	必要な時は、飲酒について尋ねてよいと患者は考えている。	1	2	3	4	5	6	7
12	アルコール関連問題に関するどのような情報でも、患者に尋ねてよい。	1	2	3	4	5	6	7
13	飲酒者と関わる中で必要と感じたなら、自分が困ったことについて何でも話し合える人を、容易に見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7
14	飲酒者と関わる中で必要と感じたなら、専門職としての責務を明確にできるように助けてくれる人を、容易に見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7
15	飲酒者と関わる中で必要と感じたなら、飲酒者への最善の関わり方を考えるのを助けてくれる人を、容易に見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7
16	アルコール関連問題の原因やこの問題に対する対応に、関心がある。	1	2	3	4	5	6	7
17	飲酒者に対する仕事がしたい。	1	2	3	4	5	6	7

		1 全くそう 思わない	2 そう思わ ない	3 あまりそ う思わない	4 どちらと も言えない	5 少しそう 思う	6 そう思う	7 とてもそ う思う
18	飲酒者に対して自分ができる最善のことは、ほかの機関や人に紹介することだ。	1	2	3	4	5	6	7
19	飲酒者に自分が援助できることは、ほとんどない。	1	2	3	4	5	6	7
20	飲酒者に対する態度として、一番ありがちなのは、悲観的になることだ。	1	2	3	4	5	6	7
21	それほど飲酒しない人に対してと同じように、飲酒者にもかかわることができる。	1	2	3	4	5	6	7
22	飲酒者に対して、役立てないと感じてしまう。	1	2	3	4	5	6	7
23	飲酒者に対する自分の仕事を、もっと重視したい。	1	2	3	4	5	6	7
24	飲酒者に対する仕事をしている時に、誇りに思えることはあまりない。	1	2	3	4	5	6	7
25	飲酒者に対して、全くうまくかかわれないと感じる。	1	2	3	4	5	6	7
26	飲酒者に対する自分の仕事のやり方に、満足している。	1	2	3	4	5	6	7
27	飲酒者に対する仕事をする時に、しばしば不快な気持ちになる。	1	2	3	4	5	6	7
28	一般的に、飲酒者に対する仕事から満足を得ることができる。	1	2	3	4	5	6	7
29	一般的に、飲酒者に対する仕事は働きがいがある。	1	2	3	4	5	6	7
30	飲酒者のことを理解できる。	1	2	3	4	5	6	7
31	飲酒者に好感を持っている。	1	2	3	4	5	6	7

この下の円の中心にある人型を飲酒者であると想定し、絵の中にあなたの人型を1つだけ描きこんで下さい。



ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

以下の質問で当てはまるものに を、もしくはカッコの中にご記入ください。

- ・ 年齢： 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70歳以上
- ・ 性別： 男 ・ 女 ・ 支援経験年数：()年
- ・ 資格： 精神保健福祉士・臨床心理士・保健師・看護師・医師・その他

- ・ アルコールに関連する問題の対応で困ることはありますか？： はい・いいえ
- ・ 薬物・ハーブに関連する問題の対応で困ることはありますか？： はい・いいえ
- ・ ギャンブルに関連する問題の対応で困ることはありますか？： はい・いいえ

- ・ アルコールに関連する問題に対して、陰性感情を抱くことはありますか？
： よくある・ときどきある・たまにある・あまりない・ない
- ・ 薬物・ハーブに関連する問題に対して、陰性感情を抱くことはありますか？
： よくある・ときどきある・たまにある・あまりない・ない
- ・ ギャンブルに関連する問題に対して、陰性感情を抱くことはありますか？
： よくある・ときどきある・たまにある・あまりない・ない

- ・ 夜眠れない時に飲酒している場面ではどのように対応されていますか？
(複数可能) うまく対応できない・断酒を指導・節酒を指導・受診を勧める
- ・ うつが疑われる場合に、アルコール問題を把握していますか？
： 必ずする・ときどきする・たまにする・あまりしていない・していない

- ・アルコール関連問題に対して、支援は必要と感じますか？： はい ・ いいえ
- ・薬物・ハーブ関連問題に対して、支援は必要と感じますか？： はい ・ いいえ
- ・ギャンブル関連問題に対して、支援は必要と感じますか？： はい ・ いいえ

・今までに、依存症の支援に関して専門家に指導を受けたことがありますか？

： 専門医療勤務経験がある ・ かなりある ・ すこしある ・ あまりない ・ ほとんどない

- ・アルコール関連問題の支援で対応に悩んだことはありますか？： はい・いいえ
- ・薬物・ハーブ関連問題の支援で対応に悩んだことはありますか？： はい・いいえ
- ・ギャンブル関連問題の支援で対応に悩んだことはありますか？： はい・いいえ

・1つでも「はい」と答えた方は、どのように対処していますか？

相談できる専門家がいる 自分で勉強する 勉強会・講演会に参加する

わからない その他()

・依存症支援に関する勉強会があれば、参加したいですか？： はい ・ いいえ

・「はい」と答えた方は、具体的に受けたい内容や知りたいことなどをお書き下さい。

[]

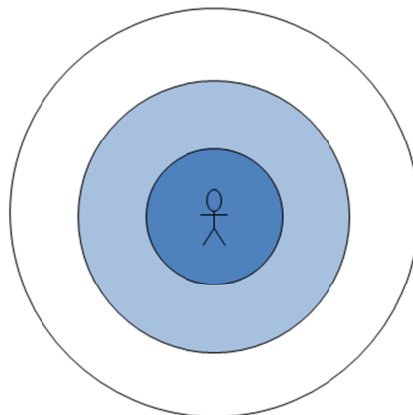
* お忙しい中、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

(添付資料3) 以下の文章について、最もあてはまる答えに をつけてください。 **参加ID**(_____)
 この質問では、飲酒者とは、何らかの飲酒問題を持ちつつ飲酒している人のことを指します。

		1 全くそう 思わない	2 そう思わ ない	3 あまりそ う思わない	4 どちらと も言えない	5 少しそう 思う	6 そう思う	7 とてもそ う思う
1	アルコールやアルコール関連問題に関する仕事上の知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
2	飲酒問題の原因について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
3	アルコール依存症について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
4	アルコールが及ぼす身体的な影響について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
5	アルコールが及ぼす心理的な影響について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
6	飲酒問題を生じさせるリスク因子について、自分の職務を果たすのに十分な知識がある。	1	2	3	4	5	6	7
7	飲酒者に対し、長期にわたって相談にのり助言する方法を知っている。	1	2	3	4	5	6	7
8	飲酒やその影響について、患者に適切にアドバイスできる。	1	2	3	4	5	6	7
9	飲酒者を援助する責務をしっかりと認識している。	1	2	3	4	5	6	7
10	必要な時は、患者に飲酒について尋ねてよい。	1	2	3	4	5	6	7
11	必要な時は、飲酒について尋ねてよいと患者は考えている。	1	2	3	4	5	6	7
12	アルコール関連問題に関するどのような情報でも、患者に尋ねてよい。	1	2	3	4	5	6	7
13	飲酒者と関わる中で必要と感じたなら、自分が困ったことについて何でも話し合える人を、容易に見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7
14	飲酒者と関わる中で必要と感じたなら、専門職としての責務を明確にできるように助けてくれる人を、容易に見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7
15	飲酒者と関わる中で必要と感じたなら、飲酒者への最善の関わり方を考えるのを助けてくれる人を、容易に見つけることができる。	1	2	3	4	5	6	7
16	アルコール関連問題の原因やこの問題に対する対応に、関心がある。	1	2	3	4	5	6	7
17	飲酒者に対する仕事がしたい。	1	2	3	4	5	6	7

		1 全くそう 思わない	2 そう思わ ない	3 あまりそ う思わない	4 どちらと も言えない	5 少しそう 思う	6 そう思う	7 とてもそ う思う
18	飲酒者に対して自分ができる最善のことは、ほかの機関や人に紹介することだ。	1	2	3	4	5	6	7
19	飲酒者に自分が援助できることは、ほとんどない。	1	2	3	4	5	6	7
20	飲酒者に対する態度として、一番ありがちなのは、悲観的になることだ。	1	2	3	4	5	6	7
21	それほど飲酒しない人に対してと同じように、飲酒者にもかかわることができる。	1	2	3	4	5	6	7
22	飲酒者に対して、役立てないと感じてしまう。	1	2	3	4	5	6	7
23	飲酒者に対する自分の仕事を、もっと重視したい。	1	2	3	4	5	6	7
24	飲酒者に対する仕事をしている時に、誇りに思えることはあまりない。	1	2	3	4	5	6	7
25	飲酒者に対して、全くうまくかかわれないと感じる。	1	2	3	4	5	6	7
26	飲酒者に対する自分の仕事のやり方に、満足している。	1	2	3	4	5	6	7
27	飲酒者に対する仕事をする時に、しばしば不快な気持ちになる。	1	2	3	4	5	6	7
28	一般的に、飲酒者に対する仕事から満足を得ることができる。	1	2	3	4	5	6	7
29	一般的に、飲酒者に対する仕事は働きがいがある。	1	2	3	4	5	6	7
30	飲酒者のことを理解できる。	1	2	3	4	5	6	7
31	飲酒者に好感を持っている。	1	2	3	4	5	6	7

この下の円の中心にある人型を飲酒者であると想定し、絵の中にあなたの人型を1つだけ描きこんで下さい。



質問があれば以下に記載してください。